

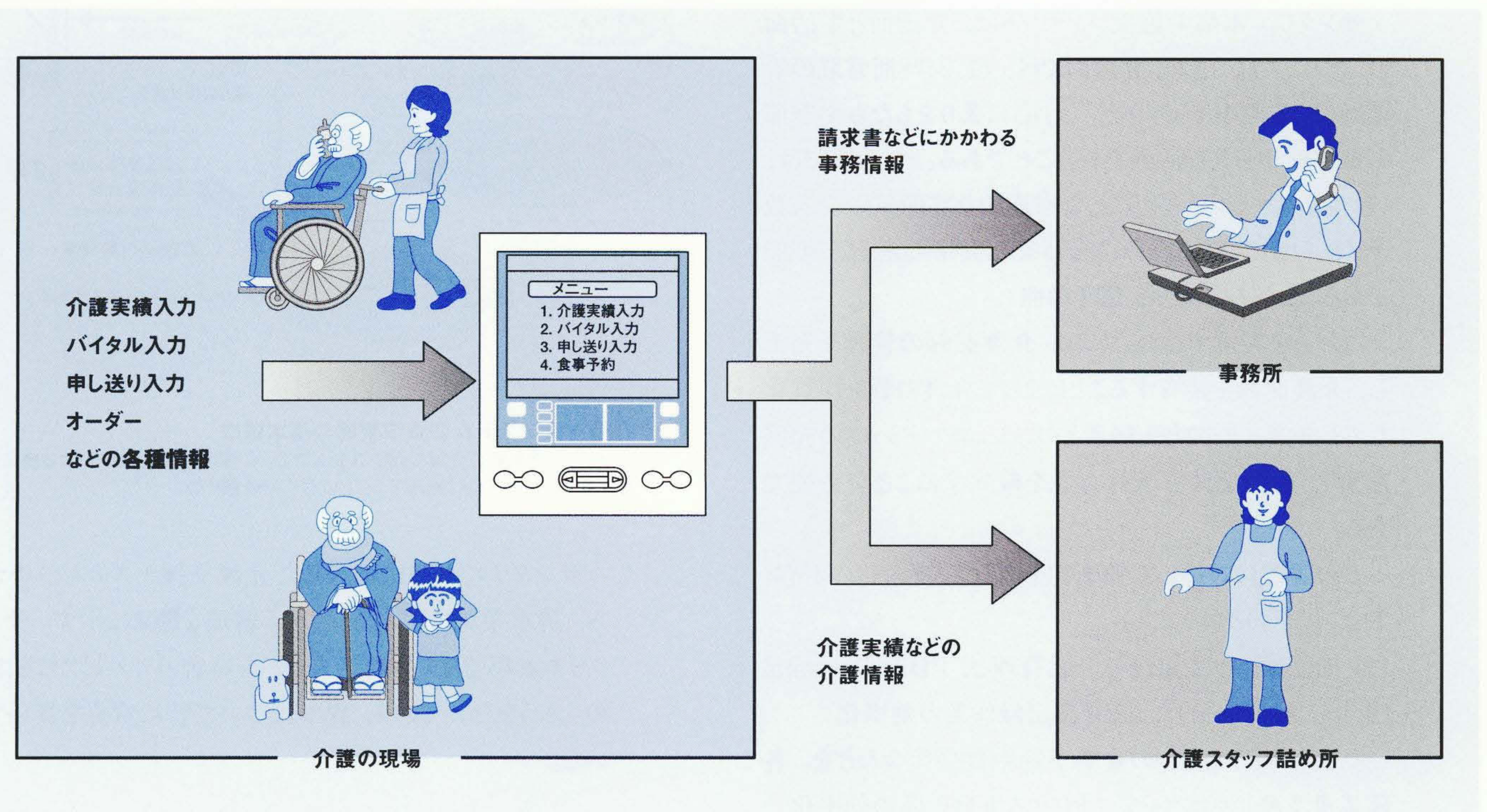
介護付き有料老人ホーム向け介護支援システム

— 株式会社日京クリエイトの「サンクリエ本郷」の事例 —

Computer Information System for Care Services at Retirement Homes

■ 江龍 康雄 Yasuo Eryû

■ 梶山 知弘 Chihiro Kajiyama



「サンクリエ本郷」納め介護支援システムの情報連携イメージ

サンクリエ本郷では、介護スタッフがPDA(Personal Digital Assistant:携帯情報端末)を用いて、食事予約や介護記録に関する情報などを入力できる。入力された情報は、請求については事務所が、介護については介護スタッフがそれぞれ共有することにより、事務処理や介護の業務効率化を図っている。

日立グループは、株式会社日京クリエイトが運営する介護付き有料老人ホーム「サンクリエ本郷」に介護支援システムを納入した。このシステムは、介護スタッフのための介護記録管理機能と、事務員のための各種請求処理機能で構成している。

介護記録は、介護スタッフが介護中に携帯するPDAと介護現場の端末から入力することができる。請求情報のうち、食事予約や月額利用料に含まれない有料サー

ビス(規定回数を超えた入浴時の介助、タクシーで病院に行く場合の同行費用など)といった介護現場で発生する情報についても、PDAや介護現場の端末から入力できる。これにより、介護スタッフには記録作業の効率化による介護業務、事務員にとっては現場で生じた請求情報の効率的な収集による請求業務など業務全体の効率化が可能となる。

1 はじめに

わが国の高齢化率は、2025年には30%近くに達する見込みである。政府は、高齢者保健福祉施策の充実を図るため、「ゴールドプラン21」などで介護保険施設の設置を実施した。しかし、都市部では土地代や建設場所などの影響により、まだ十分な数に達していない。この施設不足を補うため、民間企業による有料老人ホーム事業が活発化している。エネルギー関連企業、不動産関

連企業などはもとより、サービス関連企業なども新規分野の開拓を目的として、この分野へ参入している。

日立グループは、福祉施設の運営実績や、実際の介護現場から得たノウハウを生かし、さまざまなシステムやサービスを提供している。

ここでは、株式会社日京クリエイトが運営する介護付き有料老人ホーム「サンクリエ本郷」に納入した、日立グループの介護支援システムの開発経緯と留意点、構築システムの概要、およびシステム効果について述べる。

2 システム開発の経緯

介護付き有料老人ホーム施設の運営を支援するシステムは、スタッフ業務の効率化や、入居者の安全性・快適性、および種々のサービスの品質向上を支援するものであり、施設独自のくふうを生かすことが求められる。

サンクリエ本郷の施設コンセプトは、介護面と生活面の二つに大別できる。介護面では、(1)24時間常駐の看護師による健康チェックと、(2)心に張りをもたらし季節の催しやサークル活動を行うことである。生活面では、(1)生活スタイルを大切にしたい家族的な雰囲気のある少人数ケアと、(2)3食とも好みに合わせた食事の選択が可能であることがあげられる(図1参照)。

これらを実現するためには、介護記録の管理を充実し、介護記録を共有することによって介護の質を均質化して、介護スタッフと入居者とのコミュニケーションの充実を図り、簡便な食事予約方法を確立することが必要である。

この課題に対応して効率化を図るシステム化のポイントは、以下のとおりである。

- (1) 介護面:介護記録の一元管理と、PDA(Personal Digital Assistant)による介護記録作業の効率化
- (2) 生活面:PDAでの食事予約や食事代金などを、各種請求業務と連携させることによる事務作業の効率化

有料老人ホームでは、介護請求のほかに自由設定で決まる月額利用料金が生じるため、老人保健施設や特別養護老人ホームに比べ、請求業務が大きく異なる。そのため、請求処理機能面に重点を置き、食事面でのサービスに注力してシステムを設計することにより、請求業務や食事予約の効率化を図るとともに、施設生活での入居者の楽しみの一つである食事を楽しくすることへの一助とした。

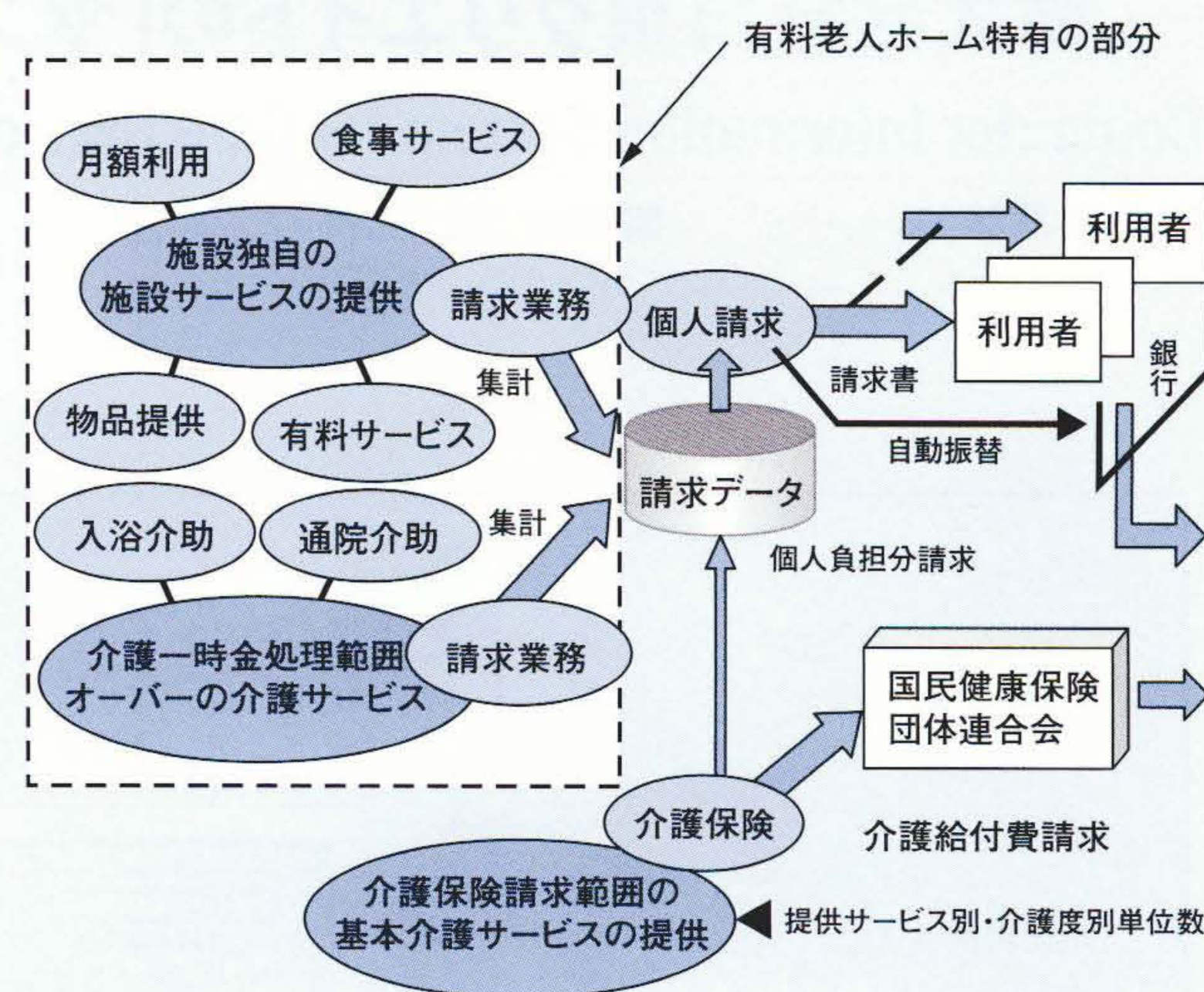


図2 介護支援システムの請求業務の基本構成

サンクリエ本郷の介護支援システムでは、介護現場から上がってくる請求に関する情報を効率的に処理することにポイントを置いた。

サンクリエ本郷に納入した介護支援システムの中から、請求業務に関するシステム構成を図2に示す。サンクリエ本郷では、有料老人ホーム特有のサービスに独自のくふうを加えており、食事について特に重点を置いている。

3 システム開発での留意点

3.1 食事サービス機能の考え方

従来、入居者が食事を予約するときには、電話連絡や、事務員・介護スタッフへの口頭での伝達、もしくは食事予約台帳などによる申請で進められていた。しかし、これらの方法では伝達ミスなどが生じやすいことから、入居者の満足を得られないことが多かった。このため、サンクリエ本郷では、介護スタッフが食事に関する要望を入居者から聞き取り、PDAで予約情報を入力する方式を用いて、食事サービスの充実を図った。

食事サービス機能の概要を図3に示す。介護スタッフがPDAで食事予約の実績管理と食事品目の選択を行うことにより、伝達ミスが減少するだけでなく、入居者とのコミュニケーションが増大する。

これにより、生活面での施設コンセプトである、生活スタイルを大切にしたい家族的な雰囲気のある少人数ケアと、3食とも好みに合わせた食事の選択ができるという2点を同時に達成した。

3.2 専用端末(PDA)

PDAは操作性と携帯性を重視し、誤って落としても壊れにくいものを選択した。また、食事予約とともに介護記

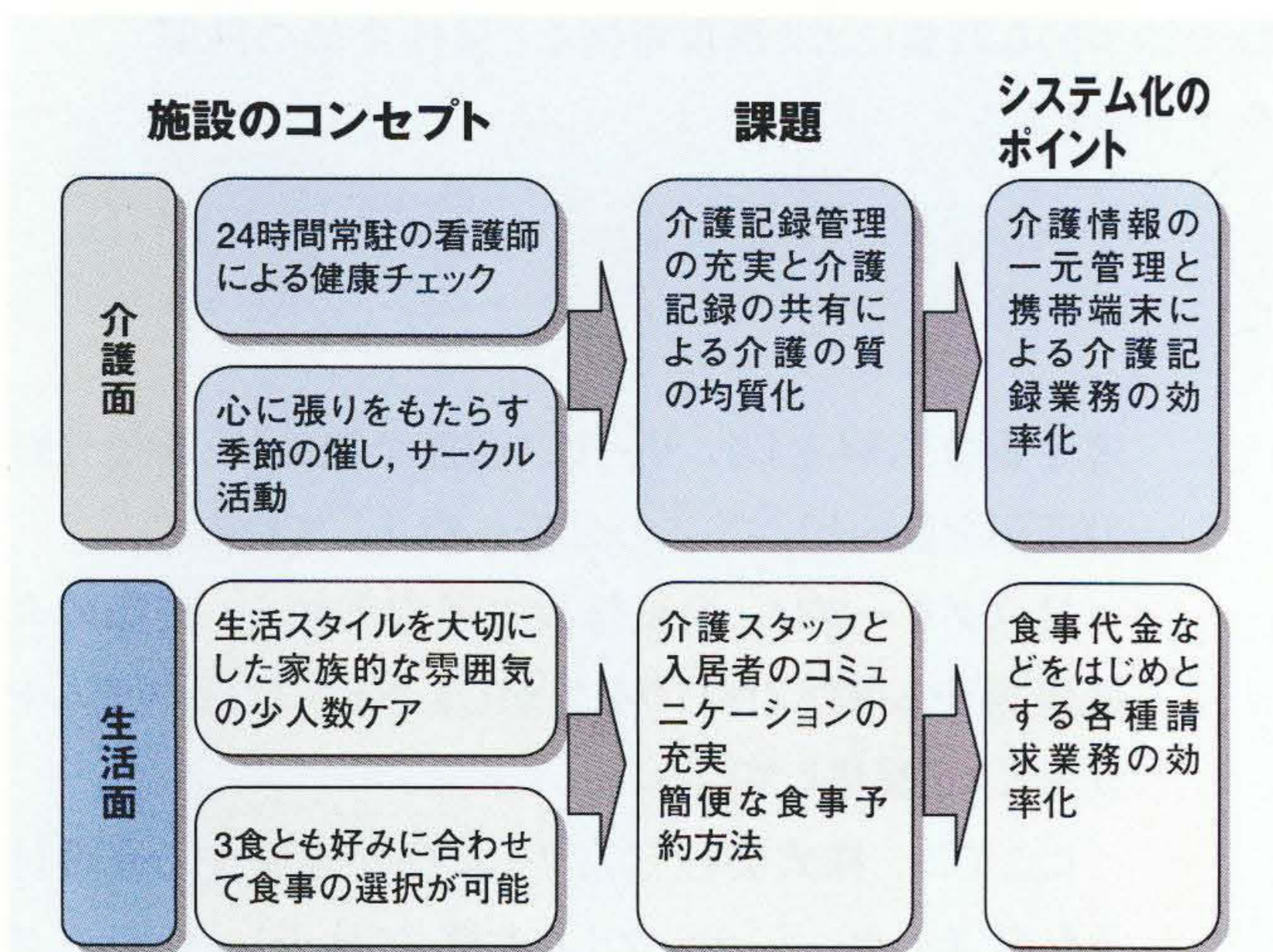
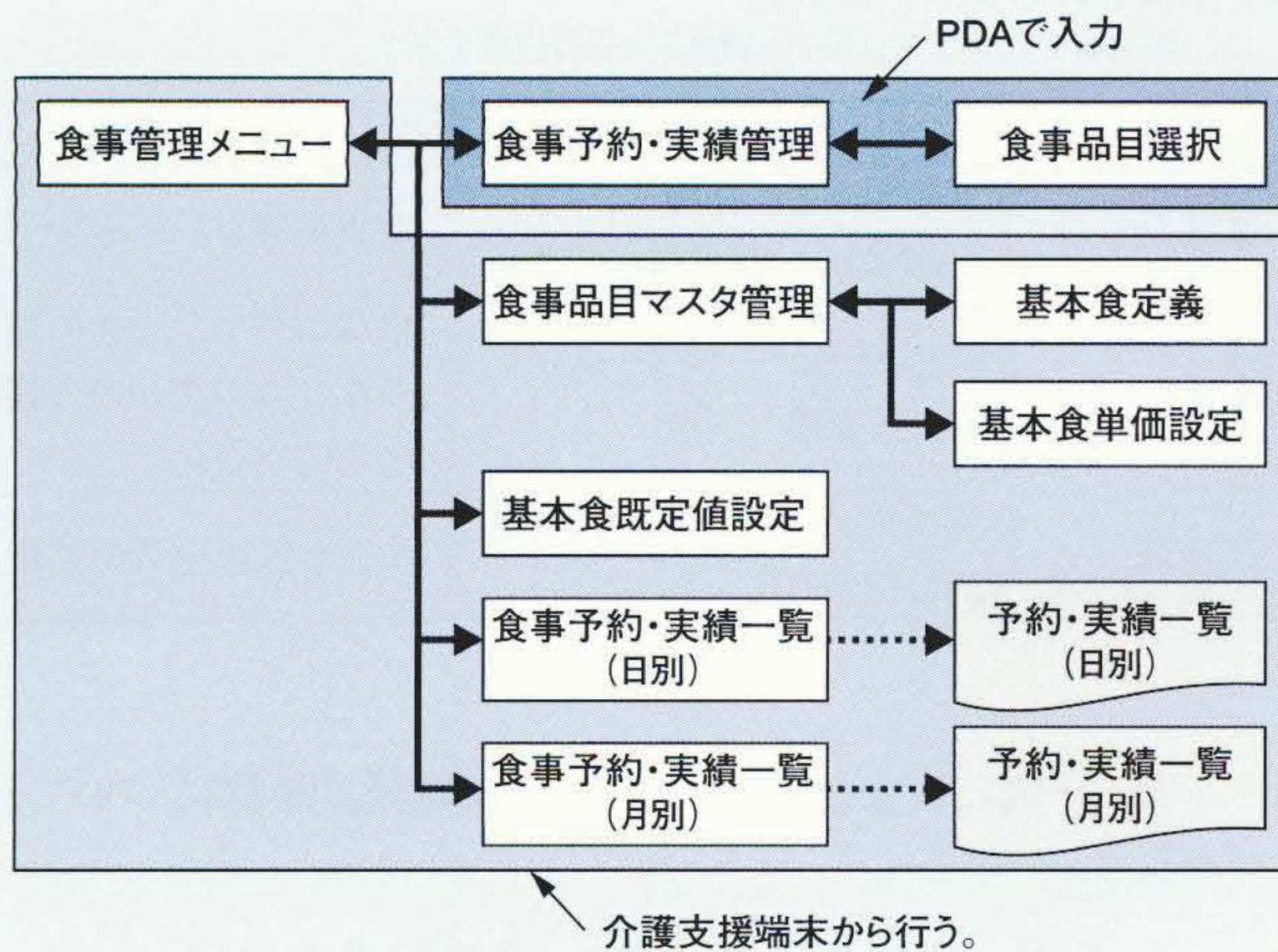


図1 コンセプトとシステム化のポイント

施設コンセプト、課題とシステム化のポイントを示す。



注:略語説明 PDA(Personal Digital Assistant)

図3 食事サービスに関する機能の概要

食事についての基本情報は、介護支援端末で入力する。入居者から得られた情報は、介護現場に設置されたPDAによってスタッフが入力する。

録の入力もできることを目標とし、申し送り事項などを考慮して、手書き文字認識機能がサポートされている機種を選択した。

PDA用のソフトウェアは、(1)簡便な操作と、(2)選択式での入力に留意した。介護スタッフは業務が忙しくても、多数の入居者に対応しなければならない。このため、必要な情報を簡単、かつ確実な操作で入力できるようにした。

食事予約は、介護スタッフが入居者ごとに行うことにして、PDAに装備されたタッチパネルのメニュー画面から、朝食、昼食、おやつ、夕食を順次選択する方式で入力する(図4参照)。このPDAを、所定のクレードル(充電器兼パソコン接続用スタンド)にセットすると、入力されたデータが事務所に設置されたシステムに転送される。転送された予約情報はデータベース化されて、給食システ

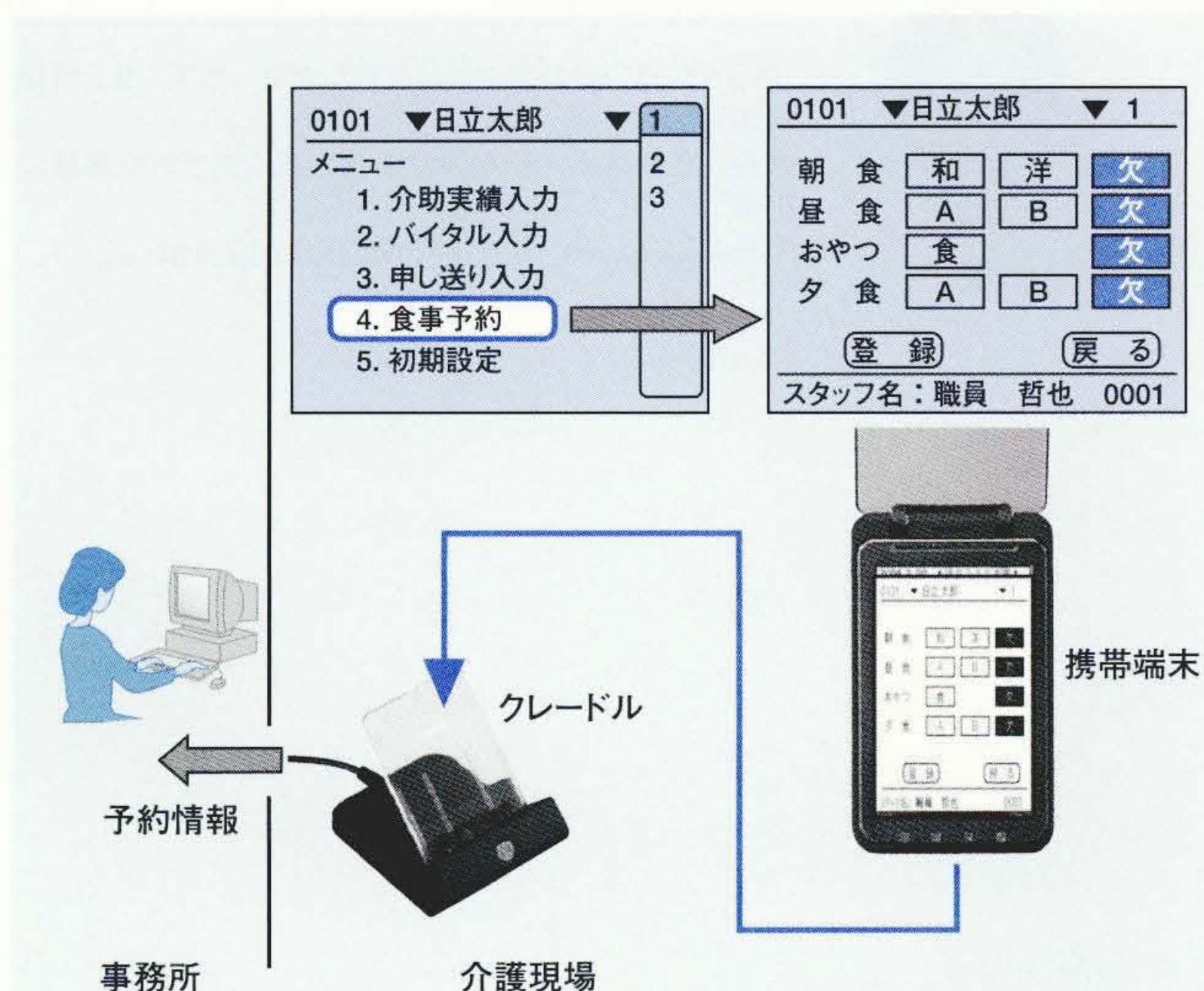


図4 PDAを使った食事予約入力とデータ転送のイメージ

PDAから入力した食事予約情報は、請求業務に利用される。

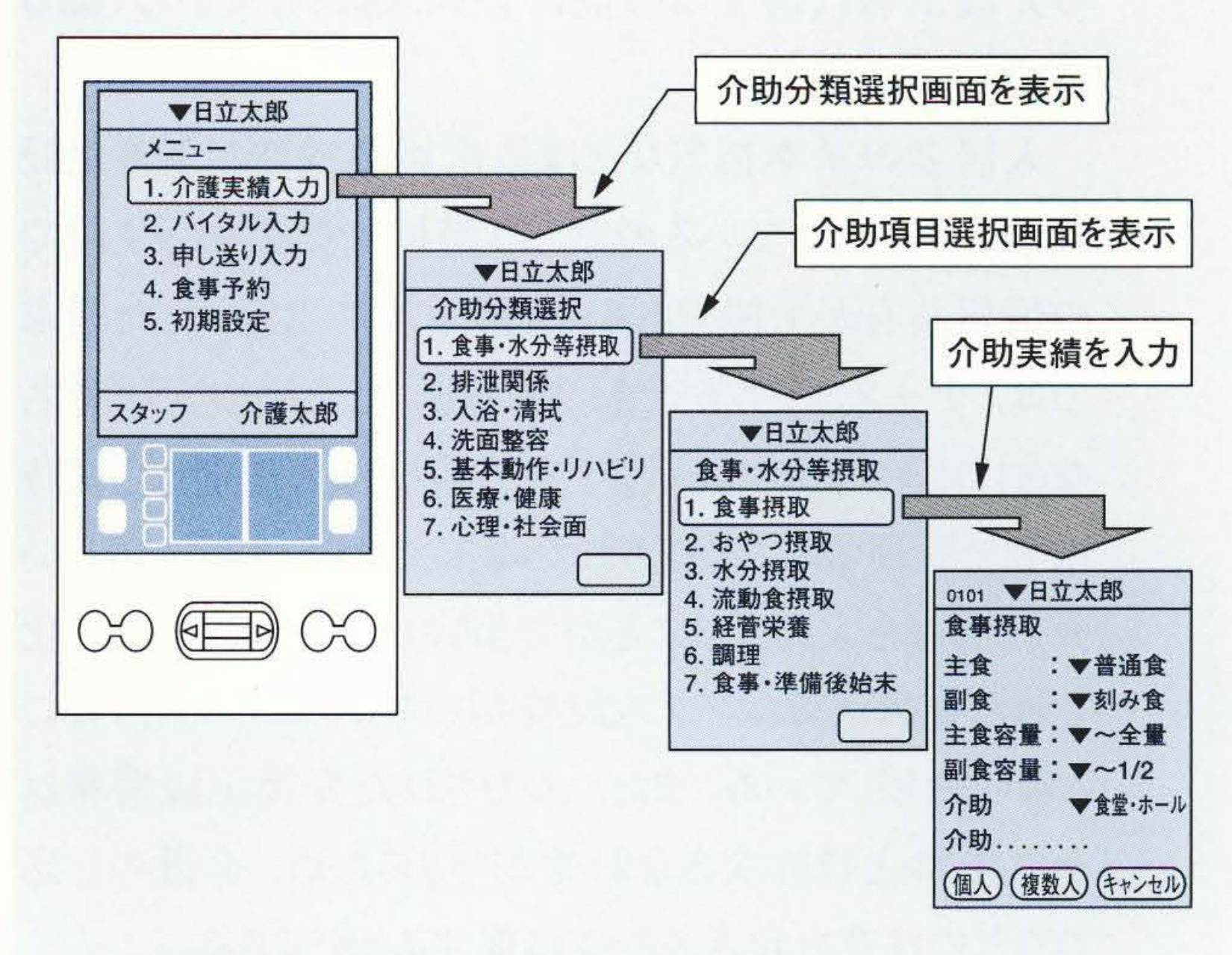


図5 PDAを使った介護実績入力のイメージ

使い勝手を重視するため、入力項目を選択式とした。

ムに連携する。

介護実績の入力も食事予約と同様に、PDA画面をタッチすることで展開する選択式とした(図5参照)。また、展開による切り替えを2, 3画面と少なくすることにより、介護スタッフが現場で情報を入力する際の使い勝手の向上を図っている。入力した介護実績情報も、食事予約情報のように、クレードルにセットすると介護支援システムに転送される。

サンクリエ本郷に納入したシステムは、事務員が利用する請求などに関する機能と、介護スタッフが利用す

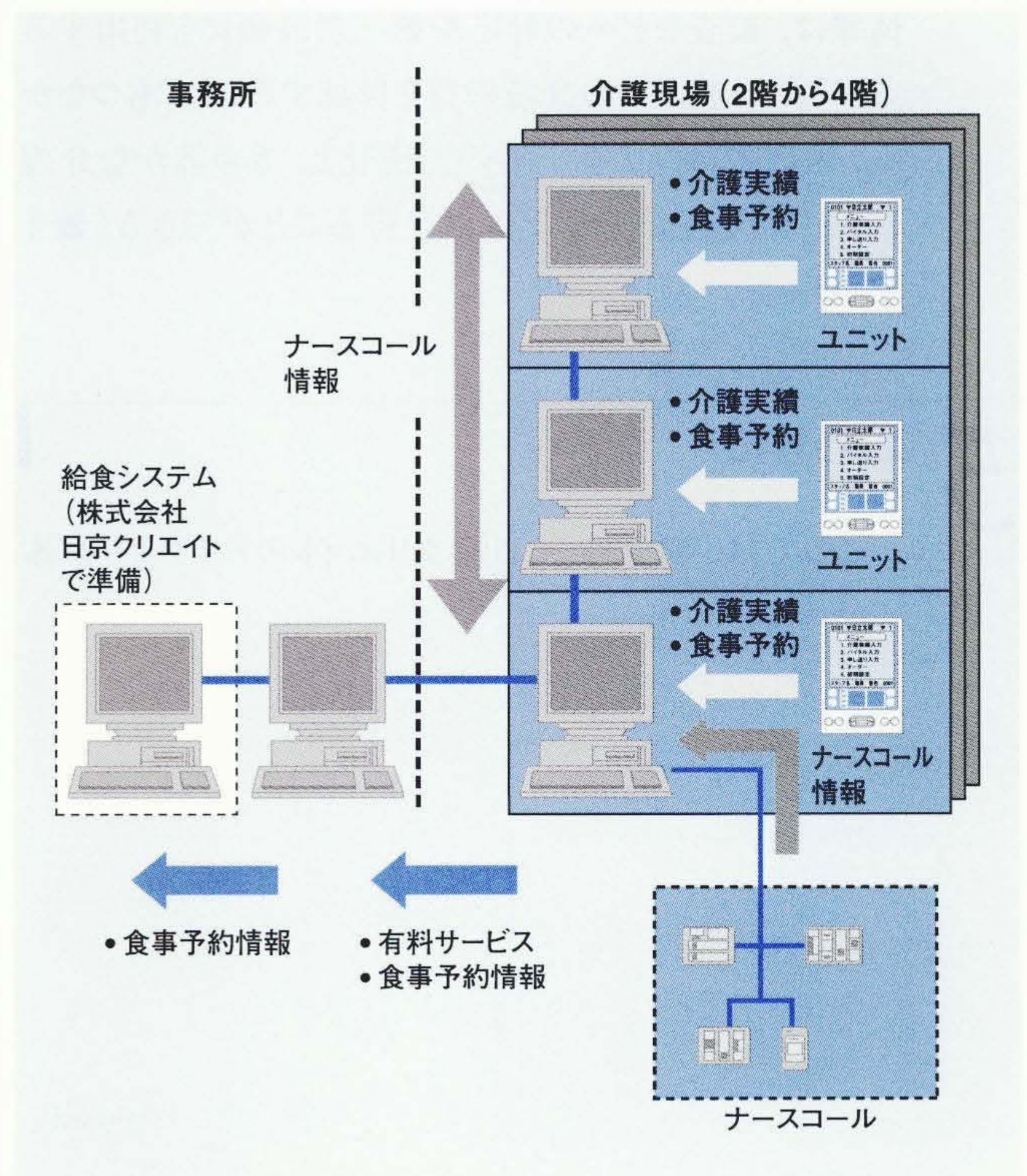


図6 サンクリエ本郷の介護支援システムの全体構成

PDAを用いて入力した情報は、介護現場と事務所の双方で利用される。

る介護情報に関する機能によって構成している(図6参照)。

入居者の基本情報などは請求処理機能と介護記録機能とで共有しているので、事務員と介護スタッフ間での情報共有が可能である。介護現場に設置された端末では、ナースコールができ、呼び出した部屋の入居者名などはポップアップ表示し、その履歴は入居者ごとに時系列で管理する。設置された端末ではPDAよりも詳しい介護情報を入力することができるので、データベース化された介護情報はグラフなどを用いてビジュアル化することも可能としている。また、入力された介護記録情報はケアプランと自動突き合わせができるため、介護のし忘れなどの注意を介護スタッフに促すことができる。

さらに、介護情報を介護スタッフ全員で共有することで、介護スタッフの力量差が減少し、介護水準を安定化させることが期待できる。

4 システムの効果

介護支援システムの利用者は、事務員、介護スタッフ、および入居者である。事務員には漏れのない請求情報、介護スタッフには介護情報のデータベース化による一元管理、利用者には介護スタッフの操作による食事予約の円滑化がそれぞれ求められる。このため、システムにはそれぞれのニーズを満足させる機能を持たせた。その結果、請求処理などが効率化し、介護情報の共有によるきめ細かな介護が実現した。また、一元管理された介護情報は、監査などへの対応や第三者評価にも利用することにより、施設での介護の質を保証することにもつながる。入居者は、食事予約の円滑化と、きめ細かな介護によって快適で安全な生活を得ることができる(表1参照)。

5 おわりに

ここでは、株式会社日京クリエイトの「サンクリエ本

表1 期待されるシステム効果

利用者に対応するシステム機能と、その効果を示す。

利用者	機 能	効 果
事務員	食事予約など、介護スタッフによる漏れのない請求情報の連絡	請求処理などの効率化
介護スタッフ	介護情報のデータベース化による一元管理	情報共有によるきめ細かな介護の実現と介護水準の均質化
入居者	介護スタッフの操作による食事予約の円滑化	快適な施設生活の実現

郷」を例に、介護支援システムの開発と構築について述べた。

今後、有料老人ホームは、介護予防などをはじめとする新たなサービスを取り込みながら、さらに数が増えるものと予測されている。

日立グループは、これからも、豊富な構築実績から培ったノウハウを活用し、事務員、介護スタッフ、入居者、およびその家族にとって、いっそう満足度の高いシステムの開発を進めていく考えである。

参考文献など

- 1) 株式会社日京クリエイト「サンクリエ本郷」ホームページ、
<http://www.sun-crea.jp/>
- 2) 株式会社日京クリエイト「サンクリエ本郷」納め介護支援システム、日立評論、87、1、p.85(2005.1)

執筆者紹介



江龍 康雄

1992年日立製作所入社、トータルソリューション事業部プロジェクト統括本部 ライフサポート部 所属
現在、福祉関連システム全般の拡販に従事
E-mail: yasuo.eryu.ux@hitachi.com



梶山 知弘

1986年株式会社日立エンジニアリングサービス入社、情報制御システム本部 所属
現在、有料老人ホーム向け介護支援システムの開発に従事
E-mail: kajiyama_chihiro@mail.hesco.hitachi.co.jp